2004 年防災教育チャレンジプラン最終報告書

記入日２００５年１月２５日

Ⅰ　概要

実践団体・担当者名	静岡県南伊豆町立南中小学校　（担当者：吉田 祐子）	
連絡先	０５５８－６２－００３２	
プランタイトル	伊豆半島沖地震から学ぶ　～今、そして　これからの防災～	
目的	○　30 年前に学区内で起こった大きな地震災害をもとに、子どもにできる地域の防災を考えたい。 ○　小学生と地域住民が一緒に取り組み、初歩的な防災マニュアルを作りたい。 ○　高齢者とのふれあいを通して、地域の実状に即した防災活動を推進したい。	
プランの概略	年間を見通した活動計画を立て、総合的な学習の時間を使って、各学年のテーマに沿って学習に取り組む。 ・　慰霊祭に参加（被災者の家族にインタビュー・起震車体験・震災後のビデオ鑑賞） ・　地震調査隊のアンケート（地域の人を訪問する。） ・　DIG に備えてのフィールドワーク（危険箇所の確認をする。） ・　応急処置の仕方を学ぶ ・　DIG	
プランの対象と参加人数	５，６年生（50 人）	
実施日時	年間を通した総合的な学習の時間（毎週木曜日の第５・６校時）	
主な実施場所	南中小学校５・６年教室	
連携した団体名、連携の方法	連携団体の有無	あり
	連携した団体名	県防災局 町防災担当 富士常葉大学劇団ふじさん
	連携したきっかけ・理由	①防災教育チャレンジプラン･ワークショップで知り合ったため ②同じ静岡県内ということで交流できるとよいと思った。また、子どもたちに劇にまとめる表現の仕方を見る機会を与えたかったから。
	連携団体へのアプローチ方法	①防災教育チャレンジプラン･ワークショップの第 1 回の発表のときに、名詞をいただき情報交換した。 ②メールや電話で連絡をとりあった。
	連携団体との打合せ回数	メールや電話で４～５回
	連携団体との役割分担	・保護者への参加呼びかけ、会場準備は本校 ・当日の会の進め方は、お任せした。

Ⅱプラン立案過程

プラン立案 メンバーの 人数・役割	団体内のスタッフ総人数	５名
	外部スタッフの総人数	なし
	主なメンバーの 役職・役割	鈴木　秀隆（６年担任） 山本　裕紀子（総合的な学習の時間６年補助） 吉田　祐子（５年担任） 佐藤　直也（総合的な学習の時間５年補助） 鈴木　眞理子（教頭：渉外）
プラン立案に要した日数・時間	立案期間	２００３年１月　～２００５年２月
	立案時間	年度当初の年間計画の作成に時間をかけ、その後、学期ごとの振り返りと見直しを行った。その他、その都度必要に応じて実施した。
	上記のうち打合せ回数	
プラン立案で 注意を払った点 工夫した点	○　子どもたちが興味・関心を持ち続け、主体的に活動し、実践的に課題を深めていく学習にすること ○　自分たちの生活の振り返りから考え、さらに地域の中で学びを生かしていこうとする姿勢を大切にしたこと。 ○保護者や地域との交流・地域への発信	
プラン立案で 苦労した点	○　グループ活動になると、教師の手が足りない。 ○　校外学習の時間確保	

Ⅲ実践にあたっての準備

準備に関わった方と人数・役割	団体内のスタッフ総人数	５名
	外部スタッフの総人数	なし
	主なメンバーの 役職・役割	鈴木　秀隆（６年担任） 山本　裕紀子（総合的な学習の時間６年補助） 吉田　祐子（５年担任） 佐藤　直也（総合的な学習の時間５年補助） 鈴木　眞理子（教頭：渉外）
準備に要した日数・時間	準備期間	２００３年４月　～　２００５年２月
	準備総時間	週時間割に位置づけられている総合的な学習の時間に備えて年間を通して準備を進めた。
	上記の内打合せ回数	

教育関係への働きかけ	働きかけた教育関係者・機関名	
	どのように働きかけたか	
	結果	
地域への働きかけ	働きかけた地域の人・機関名	
	どのように働きかけたか	
	結果	
保護者・ＰＴＡへの働きかけ	働きかけた保護者・ＰＴＡ組織名	
	どのように働きかけたか	
	結果	
機材・教材の準備方法	用意した機材・教材	
	入手先・入手方法	
	機材・教材選定の理由（なぜこの機材・教材を選んだのか）	
参加者の募集	募集方法	
	募集期間	年　月　日 ～　月　日
	参加予想人数	名
	実際の参加人数	名
	募集方法の成功点	
	募集方法の失敗点	
準備で苦労した点・工夫した点		

Ⅳ　タイムスケジュール

	プラン立案	実践にあたっての準備	実践
2003 11月			
12月			
2004 1月	企画書の作成		
2月			
3月	校内企画打ち合わせ (以後、必要に応じ、適宜打ち合わせを行う)		
4月		各学年、年間学習テーマを決定 年間活動計画の作成	・文集「大地は裂けて」を読む。 ・伊豆半島沖地震の体験談を聞く。
5月		バスの手配	・慰霊祭参加（伊豆半島沖地震から３０年） ・起震車体験
6月		町役場（郷土館）との連携（依頼・お礼）	町の郷土館で当時の様子を学ぶ。
7月		・学校から地域の方への手紙作成（協力のお願い） ・子どもたちの活動に危険箇所がないか事前に確認する。	・地震調査隊（地域へ出てアンケートをとる） ・DIG に備えてのフィールドワークを行い危険箇所の確認をする。
8月		１学期の活動を振り返り、今後の活動計画を見直し、修正案を作成する。	
9月			
10月		・中間報告会当日配布資料作成 ・応急処置の講習会を消防署に依頼する。	中間報告書作成（教師）
11月		・事前に質問事項を役場に届ける。 ・DIG に向けての準備、依頼、連絡（町役場・県行政センター）	・町役場訪問（町の防災に対する備えを学ぶ） ・応急処置の方法を学ぶ
12月		・地域自主防災訓練への参加について、各地区区長へ電話連絡	・地域自主防災訓練への参加 ・DIG
2005 1月		・２月１０日に行う、本校のけやき祭（総合的な学習の時間の発表会）に向けての準備 ・県防災センター見学の依頼、バスの手配	・けやき祭に向けての準備（今までの活動を振り返り、劇・パワーポイントを使っての発表・紙芝居・新聞などいろいろな方法で学んできたことを表現する。） ・最終報告書作成（教師）
2月		〈予定〉 ・県防災センターの見学で、今までの学習を確認するとともに最先端の防災を学べるように事前指導をする。	〈予定〉 ・けやき祭(2／10) ・県防災センター訪問(2／18) ・地域への発信

Ⅴ実践の詳細　【C．総合的な学習の時間　】

コマ	場所	学習内容		教師の支援・ 指導の留意点	児童・生徒の学習活動	評価の観点	使用機材・教材	苦労した点・工夫した点
第１時	教室	「伊豆半島沖地震について、調べよう」	文集「大地は裂けて」を読もう。	・当時の中学生が記した文集を手にすることにより、大きな被害の様子や、大変だったことを身近な出来事として受けとめる。	・文集「大地は裂けて」を読み、３０年前に伊豆半島沖地震が起きたことを知る。 ・感想を書く。	○　自分のやりたいこと、調べたいことを見つけ、関心を持って取り組んでいたか。		○　家族や近所の人など、すぐ近くの人に体験談を聞くことで、身近で起きた大きな出来事だったことを感じ取れるようにした。 ○　国語科の「依頼の手紙・お礼の手紙」と関連して学習を進めた。 ○　郷土館の学習について、事前に打ち合わせを行い、会場設営や学習の流れについて確認し、当日スムーズに行えるようにした。
第２時	教室		伊豆半島沖地震の体験談を聞こう。	・事前に打ち合わせをしておく。 ・文集だけでなく、体験談を聞くことで、より関心を深める。 ・身近な人にも聞いてみようという気持ちにつながるようにする。	本校の栄養士さんの体験談を聞き、地震が起きたときの様子や地震後の生活などを知る。	○　話を聞いたり、メモを取ったり、感想を述べたり、積極的に活動できたか。		
第３時	教室		家族や近所の人に聞いてきたことを発表しあおう。	・メモを取って取材してくるよう投げかけ、発表しやすいようにする。	・自分の聞いてきたことを発表する。 ・友達の聞いてきた情報に耳を傾け、新たな情報を得る。	○　依頼の仕方、電話のかけ方など校外学習の仕方を学び、礼儀正しく行うことができたか。		
第４時	教室		今後の学習計画を立てよう。	・「もっと詳しく調べるにはどうしたらよいだろう？」と投げかけ、課題に向かって取り組む雰囲気をつくっていく。	話し合い活動 調べ方を学ぶ。	○　調べたことをもとに新たな課題を見つけ、発展的に調べることができたか。		
第５時 第６時 第７時	教室		郷土館で調べよう。 ～計画を立てよう～	・依頼の手紙については、国語の時間に扱う。 ・校外学習の約束は、教師からの提示ではなく、グループでの話し合い活動で必要なことを決めるようにする。 ・子どもが連絡を取る前に、事前にお願いの電話を入れておく。	・事前学習をする。 ・アポの取り方 ・依頼の仕方 ・電話のかけ方 ・聞いてみたいこと ・校外学習の約束 などについて話し合う。 ・名札をつくる。			
第８時 第９時	郷土館		郷土館へ行こう。	・徒歩で行くため、安全指導を徹底する。 ・郷土館では、名前が分かるように子どもたちの手作り名札をつける。	・郷土館の方の話を聞く。 ・当時の資料や新聞を見たり、質問したりする。 ・感想を発表する。		デジタルカメラ	
第 10 時	教室		まとめよう。	・お礼の手紙については、国語の時間に扱う。	教えていただいたことをノートにまとめる。			

コマ	場所	学習内容		教師の支援・ 指導の留意点	児童・生徒の学習活動	評価の観点	使用機材・教材	苦労した点・工夫した点
第１時	教室	「東海地震　ぼく・わたしのできること」	中木慰霊祭に参加しよう	事前にインタビュー内容を精選する。	被災者にインタビューする。	○　話を聞いたり、メモを取ったり、感想を述べたり、積極的に活動できたか。 ○　自分たちの活動を自分たちの自身で計画し、実行したいという意欲がもてたか。 ○　グループで自分たちに必要な準備について考え、実行することができたか。 ○　みんなに分かりやすく伝えるために、自分の選んだ方法でまとめ、聞き手を意識した発表の仕方を工夫できたか。 ○　友達と一緒に活動したり、意見交換したりする中で、分かったこと、できることを増やし、自分の考えを深めようとしていたか。		○　家族や近所の人など、すぐ近くの人に体験談を聞くことで、身近で起きた大きな出来事だったことを感じ取れるようにした。 ○　国語科の「依頼の手紙・お礼の手紙」と関連して学習を進めた。 ○　郷土館の学習について、事前に打ち合わせを行い、会場設営や学習の流れについて確認し、当日スムーズに行えるようにした。
第２時 第３時	教室		インタビュー結果をまとめよう	地震災害のおそろしさを被災者の声をもとに子どもにうったえかける。	・インタビューの結果を表やグラフにまとめる。 ・被災者の心情を知る。			
第４時 第５時	教室		学区の様子を知ろう	事前に地区の地図を配布し、子どもの視点で危険箇所を見つけられるよう支援する。	・事前学習をする。 ・今まで学習してきた知識を活用し、危険箇所を確認する			
第６時 第７時 第８時	各地区		フィールドワークに出かけよう	・子どもの居住地区を基本にグループ分けをする。	地区ごとに自分の住んでいる地区を歩いて、活動する。 所を確認する。 ・地域の危険箇所を知る。 ・地域住民の地震対策意識を知る。			
第９時 第 10 時	教室		フィールドワークのまとめをしよう	・より伝わりやすいように、表やグラフを活用することを助言する。	・フィールドワークで学んだことをまとめる。 ・地図上に危険箇所を記号で記す。			
第 11 時 第 12 時 第 13 時	教室		我が家の非常時の持ち出し品リストを作ろう	・友達との交流の場をつくる。 ・必要なものが個々に違うことを助言する。	・グループごとに非常持ち出し品のリストを作る。 ・友達の作ったリストを見合う。 ・個人のリストを作る。			
第 14 時 第 15 時	体育館		ぼく・わたしにできる応急処置の方法を学ぼう	専門知識をもった G.T（消防署）に協力していただき、連絡を取り合い、当日の活動が円滑に行えるようにする。	・三角巾の折り方・使い方を覚える。 ・搬送法を知る。 ・人工呼吸方法を見学する。			
第 16 時 第 17 時	教室		静岡県東海地震第３次被害想定とはどういうことなのだろう	地震災害の写真などを提示する。 東海地震時の地域の様子を子どもたちに問いかけ、予想させる。	自分の住んでいる地域が東海地震後にどのような状況になるか知る。			
第 18 時 第 19 時 第 20 時	教室		調べたことや分かったことから DIG をやってみよう	今までに学んだことを振り返る時間を設ける。 専門知識をもった G.T（静岡県防災局）に協力していただき、連絡を取り合い、当日の活動が円滑に行えるようにする。	DIG ・町からの情報や自分たちで調べた情報を地図上に記入する。 ・地図から東海地震が起きたときの学区の置かれる状況を考える。 ・登下校時に東海地震が起きた場合、自分たちがどうするべきかを判断する。			

コマ	場所	学習内容		教師の支援・ 指導の留意点	児童・生徒の学習活動	評価の観点	使用機材・教材	苦労した点・工夫した点
第１時	教室	地震調査隊「南伊豆の実態を調査しよう」	地震調査隊の学習計画を立てよう。	見通しをもって活動に入ることができるよう、じっくり話し合いを行うようにする。	話し合い ・どのように活動を進めていくか ・調べたいこと、聞きたいことを話し合う。	○　自分たちの活動を自分たちの自身で計画し、実行したいという意欲がもてたか。 ○　グループで自分たちに必要な準備について考え、実行することができたか。 ○　調べたことを文章で書いたり、表にまとめたり、自分の選んだ方法で表現することができたか。		○　各地区での活動となり、全ての子どもを把握できないので、帰宅後の学校への連絡を確実にさせるようにした。 ○　自分の住んでいる地区の家を訪問することで、地域の人との交流を深める活動ができた。
第２時 第３時	教室		アンケートのとり方を学ぼう１	分かりやすい言葉で、適度な量の質問を考えるよう支援する。	アンケートのとり方を学ぶ。 アンケートの内容を考える。 アンケート用紙の作成			
第４時	教室		アンケートのとり方を学ぼう２	友達と練習することで、実際に地域にでたときに自信をもって活動できるようにする。	アンケートのとり方を練習する。 （友達と組んで練習する。）			
第５時	教室		調査に向けて準備しよう	実施計画書をつくることで、学校から離れての活動に責任をもって取り組み、行動できるようにする。	調査活動の実施計画書をつくる			
第６時 第７時 第８時	各地区		調査に出かけよう！	・学校から地域の方へ、協力のお願いの手紙を用意し、子どもに持たせる。 ・調査終了後は、そのまま帰宅し、学校に帰宅したことと、活動報告の電話を入れるよう事前指導する。	・地区ごとのグループで活動する。 ・自分の住んでいる地域をまわり、アンケートをとる。		デジタルカメラ	
第９時 第 10 時	教室		調査結果をまとめよう	・まとめた結果からの考察を大事にする。	・調査した結果をまとめる。 ・意見や感想を発表しあい、考察する。			

コマ	場所	学習内容		教師の支援・ 指導の留意点	児童・生徒の学習活動	評価の観点	使用機材・教材	苦労した点・工夫した点
第１時 第２時	教室	ふれあいを通して学ぼう	課題をつくろう	・じっくり話し合い、自分の課題を見つけられるようにする。 ・課題を見つけられない子どもには、友達の意見を参考にして課題を見つけられるようにする。	話し合い 課題をつくる ・地震に対する町の対策は？ ・持ち出し品は？ ・高齢者の人数は？　割合は？	○　自分のやりたいこと、調べたいことを見つけ、継続して取り組むことができたか。 ○　話を聞いたり、資料を集めたりし、自分の課題に向かって進んで調べようとしていたか。 ○　友達と一緒に活動したり、意見交換したりする中で、分かったこと、できることを増やし、自分の考えを深めようとしていたか。		○　高齢者の割合がどのくらいなのか、自分の予想をノートに書き、実際の数字と比較できるようにした。 （子どもの予想は、実際よりかなり低かった。） ○　子どもたちの意欲が高まり、活動の幅が広がり、各地区区長さんへの連絡や対応が大変だった。 ・地域自主防災訓練の参加者に、アンケートをとってみたいという子ども ・ひとり暮らしの方がどこに住んでいるのか地図に書き込みたいという子ども　など
第３時 第４時	教室		役場訪問に向けて準備しよう	・子どもが連絡する前に役場に依頼しておく。 ・子どもたちが考えた質問事項をまとめ、事前に役場に届けておく。	・アポをとる ・質問事項をまとめる。 ・グループでの話し合い ・事前に調べられることを調べる。 （町の人口、小中学生の人数）			
第５時 第６時 第７時	町役場		役場を訪問しよう	・礼儀正しい行動がとれるよう事前に指導しておく。	・事前に準備した質問をする。 ・町の人口、高齢者の人口、割合 ・高齢者のひとり暮らしの方について ・町の対策 ・水や毛布の備えについて ・役場の方の話を聞く。			
第８時 第９時	教室		活動のまとめをしよう	教えていただいたことをまとめるとともに次の課題に目を向けられるようにする。	お礼の手紙を書く。 自分たちにできることを話し合う。 ・地域自主防災訓練に参加しよう。 ・一人暮らしの方の家を地図に書き込もう。			
第 10 時	各地区		お年寄りを訪問しよう	地区に分かれての活動となるので、地区を見回り、子どもたちの活動を把握する。	地区ごとのグループに分かれて活動する。			

コマ	場所	学習内容		教師の支援・ 指導の留意点	児童・生徒の学習活動	評価の観点	使用機材・教材	苦労した点・工夫した点
第１時 第２時	教室	みんなに伝えよう	けやき祭について話し合おう	舞台発表なので、小さな資料は見えないことを伝え、どのような発表にしたらよいかを考えられるようにする。	学んできたことをどのように発表したらよいか話し合う。 ・劇 ・紙芝居 ・パワーポイントを使って発表	○　見通しをもって活動に意欲的に取り組めたか。 ○　みんなに分かりやすく伝えるために、自分の選んだ方法でまとめ、聞き手を意識した発表の仕方を工夫できたか。 ○　互いの発表を聞き合い、友達のいいところを見つけたり、アドバイスしたりし、よりよい発表に仕上げようとしていたか。		
第３時 第４時 第５時 第６時 第７時 第８時	教室 学習室 体育館		けやき際に向けて準備しよう	・国語科や社会科の学習と関連させ、ニュース形式にする方法も投げかける。 ・発表練習は、互いに見合う時間をとり、アドバイスしあい、よりよい発表につなげられるようにする。	・自分の担当を決め、グループで活動し、準備や発表練習を進める ・学んできたことを振り返りながら、まとめていく。 ・体育館で舞台練習をする。 ・家の人、お世話になった方に招待状をつくる。		スクリーン プロジェクター パソコン	
（予定） 学校行事	体育館		けやき祭（２月１０日）	・他学年の発表を見て、それぞれのよかったところやがんばりを認められるように事前に声をかけておく。	・全校で生活科と総合的な学習の時間の発表会を行う。 ・保護者、地域の方、お世話になった方々を招待する。			
（予定） 第９時	教室		発表を終えて	・他学年のよかったところやがんばりに目を向けた感想、自分の発表を振り返っての感想を素直な気持ちでかかせたい。	・発表を振り返っての感想を書く。 ・ミニ防災プランづくりの準備を進める。			
（予定） 第１０時	教室		ミニ防災プランをつくろう１ ～計画を立てよう～	・今まで学んできた防災学習を振り返り、ミニ防災プランにまとめることで、身に付けた知識をより確かなものにする。	・地域に発信するプランを考える。 ・どのような発信の仕方がよいか話し合う。			
（予定） １日 （６時間）	静岡県 防災センター		防災センターを見学しよう	・子どもたちの希望していた活動であり、楽しみにしているので、有意義な活動になるよう事前指導もしっかりしておく。 ・今まで地震や防災について学んできたことを実際に見たり聞いたりして確認できるようにする。	・自らの防災学習を深める ・災害に対する心構えを新たにする。 ・自分たちの学んだ学習を生かし、地域の防災に役立とうとする心とやり方を学ぶ。 ・県の防災に携わる方の苦労と努力を知り、自らも一員であるという自覚をもつ。			○防災の最先端をいく静岡県のセンターで、自分たちが今まで調べたり、聞いたりして学んできたことを再認識するとともに、最新の防災情報を知る機会となるようこの時期に見学することにした。
（予定） 第１７時 第１８時 第１９時 第２０時	教室		ミニ防災プランをつくろう２ ～つくって発信しよう～	・地域から学んだことを、地域に発信することでお礼の気持ちをお返しする。	・グループに分かれて活動を進める。 ・自分たちが考えた、地域に発信するミニ防災プランをつくる。			

Ⅵ実践後

参加者への アンケート結果	２月１０日(木)のけやき祭（生活科・総合的な学習の時間の発表会）に、保護者や地域の方が参加するので、そこでアンケートをとる。	
成果として 得たこと	○　防災と言っても、子どもたちにとっては、つかみどころのないものでしかなかったが、現地を訪問し、３０年前の伊豆半島沖地震の被災者の体験談を聞く活動を通して、災害（地震）というものを現実的なものとして意識するようになってきた。 ○　子どもたちは、このプランによる活動を通して学んだことを生かし、家族に「持ち出し品」を用意するように働きかけるなど実践的な防災意識が高まってきた。 ○　地域に高齢者が多いことを知り、日ごろから交流を深め、災害のときに少しでも役に立ちたいという意識が芽生えてきた。	
成果物	（学習指導案、指導計画書、配布物、ワークシート、報告書、掲載記事等。 データがあればデータファイルを貼付して下さい。） ○　当日配布資料 ○　総合的な学習の時間年間計画（５．６年） ○　中間報告資料 ○　発表会のシナリオ	
広報方法	広報した先	
	広報の方法	
	取材にきたマスコミ	伊豆新聞・朝日新聞・毎日新聞
	広報された内容（掲載された記事・番組等）	伊豆新聞２００４年３月３０日（チャレンジプラン支援決定） 伊豆新聞２００４年５月　日（慰霊祭参加） 朝日新聞２００４年５月１０日（慰霊祭参加） 毎日新聞２００４年１０月２１日（防災教育特集） 伊豆新聞２００４年１２月９日（DIG の実施）
	成功点	
	失敗点	
全体の感想と 反省・課題	・５．６年生の段階で、このテーマにどの程度取り組み、深められるか予測がつかなかったが、実際の生の資料に触れる学習活動をすることにより、子どもたちは興味・関心を持ち続け、自ら新しい課題を見つけ、発展的に取り組むことができてよかった。 ・適切な資料、情報や講師等の人材を確保して、子どもにできる地域への発信をどのように具体化していくかが課題である。	
今後の予定	来年度以降の進め方	
	是非実施してみたい取り組み	